

こども技研

こどもの部
パンフレット

たくさん失敗してみよう



つくる・探究系クラス

科学にふれあい、自然を感じる。

ものづくりや虫、花、星が好きな

こどものための習いごと

Curiosity - キュリオシティ 小学1,2年生クラス

「やってみたい！」から始まるクラスです。

見て、触れて、動かして、楽しみながら試していきます。
うまくできなくても大丈夫。

「やってみたい！」を続けるために、わくわくする気持ちを、
いちばん大切にしています。

Discovery - ディスカバリー 小学3～6年生クラス

いよいよ、未来の技術者や研究者へとつながる、スタート
ラインです。

読み、書き、計算すること。学校で学ぶそれらは、世界を
解き明かすための、とても便利な「道具」になります。

これらの道具を使って遊びから少し進み、発見と思考を重
ねていきます。

Endeavour - エンデバー 中学7～9年生クラス

エンデバーは、学校の教室と、本物の研究や技術の入り口
を結びます。

学校で習っていることと社会でのこと、これらをバラバラ
のままにせず、学習が外の世界でどう役に立っているのか、
さらに自分の興味とつなげていくことで、「なるほど！」と
いう実感を深めます。

「学び」と「興味」と「生活」を、結びつけることで育つ
探究心は、この先どこへ行ってもお子様を支える確かな自信
になるはずです。

世界を理解するための 「道具」を手に入れる

学習とは「世界を理解するための道具を手に入れていくこと」だと考えています。

だからこども技研の学習系クラスでは、算数・数学、理科、言葉といった学校の教科を、単なる暗記や解法の練習で終わらせません。

教科書に書かれた内容を出発点に、研究室にある豊富な機材や書籍を使って、知識の奥にある“本質”を確かめていきます。

答えを急ぐよりも、立ち止まり、考え直すこと。一度わかったつもりになったことを、もう一度疑ってみること。

その積み重ねが、中学・高校、そしてその先の学びや研究へと、つながっていきます。

私たちは、言葉と数字を、単なる暗記や計算の対象ではなく、世界を正しく理解し、思考するための大切な道具だと考えています。

学びとはその道具を習得していくためのものなのです。

思考を支える 「言葉」の大切さに気づく

言葉は、思考のツールです。

私たちは今、大きな「言葉」の危機に直面しています。

一つは、動画やSNSが主流となり、断片的な情報のやり取りだけで済ませてしまうことで、長い論理を追い、深く思考を巡らせる機会が失われていることです。

もう一つは、SNS やコメント欄に不正確な文章が溢れ、本や新聞を読まない子供たちが、それを正しい日本語として受け入れ、成長していることです。

美しい日本語や正しい文法に触れる機会が減ったことで、こどもたちは「思考の土台」となる言葉そのものを、正しく手に入れることが難しくなっています。

だから、こども技研は言葉にも深く目を向けます。

自分の想いや考えをしっかりと考えることができる、正しく人に伝えることができる。

ここでの活動を通して、言語のそうした本質的な力に、こどもたちが気づいて欲しいと願っています。

本質を 理解する 学習系クラス

Galileo - ガリレオ 小学生クラス

Cassini - カッシーニ 中学生クラス



「Curiosity (好奇心)」という名の、 はじまりのクラス

キュリオシティは、こども技研の原点を、体験を通して身につけていくクラスです。

むずかしい説明よりも、まずはやってみること。
見て、触れて、確かめて、考えてみること。
その中で生まれる「なんだろう？」が出発点です。

キュリオシティで大切にしているのは、次の三つです。

- ・体験する
- ・手を動かす
- ・失敗する

うまくいかなくても大丈夫。
失敗は、「失敗する方法を知ること」です。
学校ではできない失敗をどんどんしてほしいのです。

こども技研でたくさん失敗して、「どうすればうまくいくのか」を探せるようになってほしいのです。

こうした失敗の経験が、やがて成功体験を生み、次の「やってみたい」につながっていきます。



さわってみるもの

iPad / Mac / キーボード / マウス / プリンター
けんぴきょう / そうがんきょう / ぼうえんきょう /
カメラ / いちがんれふ / たくさんのレンズ /
タイマー / ストップウォッチ /
じょうぎ / スケール /
3Dプリンター /
はかり / てんびん /
おんどけい / しつどけい /
シャーレ / ビーカー /
ロボット / モーター / ギア / センサー / スイッチ /
でんきのブロック / うごくブロック / つなぐブロッ
ク /
はさみ / ドライバー /
じしゃく /
むし / はっぱ / たね / いし /
ちきゅうぎ / てんきゅうぎ /
がっき /
かいちゅうでんとう / カメラ / マイク /
たかさんの本 /
ノート / えんぴつ /
かめきち

業務で使用する機材も、
そのまま使ってもらいます。

よい道具は人を育てると考える
からです。

なにより、さわってワクワクし
ますから！

Discovery - ディスカバリー 小学3～6年生

自然科学と学校教科を融合する教室

「Discovery (発見)」という名の、
「わくわく」を「科学」に変えるクラス。

数学や理科といった教科は、

身の回りの出来事を理解するために

生まれた学問です。

だからこども技研は体験から学びへと入ります。

何の役に立つのか、
わからないまま学ぶより、
必要になった時に、
『やってみたい！』
って、
学ぶほうが楽しいよね！

学校の勉強が、世界を広げる「鍵」になる。

3年生ごろから、小学校での学びが世界を広げていきます。国語で言葉を知り、算数で数字を扱えるようになると、今まで見えていなかった「世界の仕組み」が少しずつ見えてくるようになります。

こども技研のディスカバリークラスは、学校で学んだばかりの知識を、実際の「探究」の中で使ってみる場所です。

漢字や計算は、テストのためだけにあるのではありません。目の前の不思議を解き明かし、自分の考えを形にするための大切な「道具」です。

「遊び」から少しずつ、自分の頭で「考える」ことへ。わくわくする気持ちに「理由」を見つけていく、発見の毎日が始まります。



Endeavour - エンデバー 中学7～9年生

算数・英語・言語の教室

「困難への挑戦」という名の、 大人社会へのスタートライン

Endeavour は「努力」と訳されますが、この努力は、
「できるかどうかわからないような困難に立ち向かう」
という崇高な努力を指しています。

このクラスでは、

- ・困難から逃げないこと
- ・うまくいかない理由を考え続けること
- ・地味なことの先の楽しさを知ること

を経験して欲しいのです。

これから先の大人社会に必要な、

- ・自分で考え
- ・自分で決め
- ・その結果を引き受ける世界

も、優しく体験して欲しいと考えています。

- ・ 観察する
- ・ 考える
- ・ 試す
- ・ 作る
- ・ 伝える

ハッブル望遠鏡で見た深宇宙。130億年前の光。
ここに写る光の粒は、すべて巨大な銀河。
宇宙の果ては、今、ここまで見えています。

画像提供: NASA, ESA, CSA, STScI

学校の教室に、児童が2～3人しかいなかったら？

その答えが、ガリレオです。

小学生の子供の成長に必要なのは、「自分をしっかり見つめてくれる人」です。成長の道を一緒に歩いてくれる人がいる、密度の高い時間が必要なのです。

こどもたち、一人ひとりに必要なことは違います。
進むペースも違います。
学校でも、大人数・プリント式の塾でもできないことを、ガリレオはやりたいのです。

ガリレオでは、学校や塾とは違って、正解よりも「正解へ辿り着く過程」を求めます。解き方や問題の丸暗記で正解しても「できたこと」にはしません。

固まっていない土台の上に知識を積み重ねていくと、いつか必ず倒れてしまいます。

そうならないために。すぐ目の前のテストの点ではなく、ずっと先を見て、必要な土台を固めながら進みます。

算数 - 「生活の中で数の感覚を」

小学生は「数」の感覚を身につける時期です。
小学校のここから「数学」まで積み重ねていくのです。
上に重なってくる将来の難しい数学がぐらぐらしないように、土台をしっかり固めます。

そのために大切なことは「丸暗記」ではなく「理解」です。
算数は生活を理解するために考えられた学問なので、多くは生活の中にあります。
だから算数を机上の学問にしないで、図や現実での例を使って理解を深めます。

英語 - 「中学英語に備える」

小学校の英語では「単語約700語」と「基礎的な文法」を学びます。

「4年生週1回、5・6年生で週に2回で」です。
「え？たったのそれだけの時間で？その量を？」

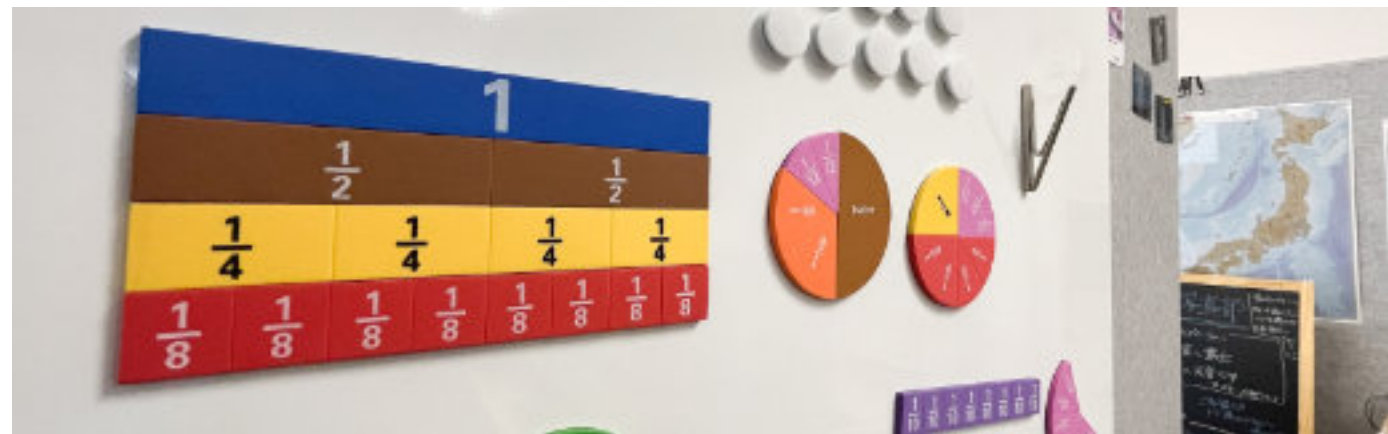
そうなのです。もちろんこれには無理があります。
なのに中学では「もう習ったから単語・文法、全部知っているよね」とされてしまいます。

このギャップが、英語への苦手意識を生んでしまいます。
だからガリレオでは、読み書きの基礎を整えます。
「自分で読める、書ける」という自信を、今のうちに育てます。

言葉 - 「すべての学びのためのツール」

言葉は、思考のための道具です。
考えることは「言葉」でおこなっています。
当たり前でありすぎて重要視されませんが、言葉を正確に読み書きできる力は、短期間で養えるものではありません。

言葉は、日々の暮らしの中での「ふれあい」そして「思考」によって磨かれます。
ガリレオでは会話や説明の中で言葉を磨いてもらいますが、その時間だけでは足りません。
日常でたくさん話して、たくさん聞いて、綺麗な言葉をたくさん読んでください。
その小さな積み重ねが、一生を支える「考える力」の土台になります。



「努力って楽しい！」って気づいてほしい教室

カッシーニです。

カッシーニが目指すのは、究極の「自学」です。

ガリレオで築いた土台を使い、自分で計画を立て、自分の頭で納得するまで考え抜く。

そんな「自走の方法」を、中学生の3年間をかけて一生モノにしてほしいと願っています。

私たちは、正解や解き方だけを教える教師ではありません。

最初にすることは「学びが楽しいと伝えること」です。

次に、こどもたちが壁にぶつかったとき、その試行錯誤さえも「面白い」と思えるように、一緒に解決の糸口を探す伴走者です。

自分の力で考え、自分のペースで走り出す。

その際に養われる実力への自信が、将来のためのとても大きな礎になります。

カッシーニは、自らの意思で歩き出すための教室です。

自分で学べるようになる、の意味

勉強に限らず、「やらされる」のって楽しくないです。
やらされると長続きせず、やった時間の割に身にもつきません。

一方で、こどもたちの多くは「やらなくちゃ」という気持ちを持っています。
だけど、その気持ちを行動に変えるにはエネルギーがいるので、「楽しい」の気持ちでチャージします。
すると、少しずつ「自分で取り組み始める」ことができるようになります。

一人で「学び進める」ために不可欠なのは、壁にぶつかった際に自力で「考え」「調べる」力です。
これが育つ前に、「人に聞く」「教えてもらう」が当たり前になると、誰かに依存し続ける大人になってしまいます。

誰かから教わるだけの生徒はグライダーです。引っ張られなければ飛べません。

自分で離陸して飛び続けることができる飛行機のように、一人でも学べるようになることが願いです。

答えよりも経過を重視する理由

答えが合っているかどうかは、実はそれほど重要ではありません。
大切なのは、正解にたどり着くまでに「どう考えたか」という経過です。
解き方を記憶すれば、考えなくても正解は書けます。
しかし、そこには自分の「思考」がありません。必要なのは「解き方」を理解することなのです。

「考える」とは、自分の頭で理解できるまで道筋を組み立てることです。
人生には答えがない問題だらけです。そうした問いに、自分で答えをだしていかなければなりません。
急がば回れ。
これから長い人生を歩むこどもたちです。
あわてて中身の無いタワーを建てるよりも、どんな難問を前にしてもグラつかない「最強の土台である思考力」を、じっくりと時間をかけて踏み固めていきましょう。

なぜ、中学生の時期なのか

中学生になると、自分で考え、自分で決めなければならない場面が増えていきます。

こうした力は、急に身につくものではありません。
まだ**失敗が許される時期に、たくさん経験を重ねる必要**があります。

失敗がまだまだ許される中学生。
何度も失敗を重ねて経験を積んで欲しいと思います。

自らの意思で考え、一人で進むための準備をする。
中学生を少し大人扱います。ここは、そのための場所です。

「知りたい」が、キミの居場所になる。

私は高校時代不登校になり留年して中退しました。
その後、大学へ入りエンジニアとして生活してきました。

学校へ行けなかった時、ありがたかったのはボランティア活動をしていた拠点である公民館でした。そこでずっと本を読んでいたことを思い出します。

高校生というある意味大人でしたので、「学校へ行かないと」と強く思っていました。が、駅の改札を通れないのです。心が拒否をします。あの時、公民館がなかったらどこへ行っていたのでしょうか。

そんな存在に、ボイジャーがなれたらと思います。
専門家ではありませんが、自分自身の経験から、不登校のこどもに必要なのは「居場所」、「やんわりとした見守り」、それにできれば「何か興味が湧くこと」があれば理想な気がします。

ボイジャーではこども技研のラボを開放します。
使うためのルールはありますが、「探究系クラス」と「学習系クラス」の全てを利用できます。

「自宅」、「学校」に続いての、3つ目の居場所にしてください。

Voyagerでできること

ボイジャーだけでなく、こども技研がそのものが「何かを強制される場所」ではありません。
こどもたちの「やってみたい」が芽生える機会を作り、「やってみる！」を静かに待つ場所です。

ボイジャーの研究員も、他のクラスの研究員と全く同じです。

・「何もしない」をしに来る

ぼんやり外を眺めたりできます。教育業界に必ずある「日課」はこども技研にはありません。
「なにかしたい」と思う時まで、そのままの自分で過ごしてください。
スタッフは自分の仕事をしながらチラチラ様子を見ています。必要を感じたら話しかけます。

・作る。造る。創る。

業務で使っている機材や、探究のための道具が揃っています。
ふとした「これ何？」を形にしたり、実験したりすることができます。
絵を描いたり、造形や工作もできます。
だけど、使うにはルールがあります。他のクラスと全く同じルールです。特別扱いはありません。

・「なぜ？」を誰かと面白がる

「これ、どうなってるんだろう」という小さなギモンを、スタッフや仲間と一緒に面白がれます。
教え合うのではなく、共に探究する関係です。
所長の私は、虫も花も鳥も動物も星も月も宇宙も石も乗り物も絵も写真も音楽も自然も科学も芸術も大好きです。楽しさを押し売りしたいくらいです。
一緒に楽しみましょう。

・自分の時間割で過ごす

慣れてきたら、自分ですることは自分で考えて決めてください。
キュリオシティクラス（1、2年生）でもやってることです。難しいことはありません。
もちろん、決めたことでも、やってもやらなくてもかまいません。ペナルティもありません。
きちんとできたら、一緒に喜びます。

こども技研は、少人数制です。
こどもたちを、学校よりも深く見守り、学校よりも大人扱いしたい からです。

時間割と料金

STEM系クラス

自分で時間と計画を管理できるようになるために、STEM系クラスでは時間に余裕を持たせています。

さらに、上級生は「見られる立場」を経験し、下級生は「目標となる姿」に出会えるよう、各クラスの時間をあえて重ねています。

- ・活動開始までにお越しください
- ・INから入室できます、OUTまでに退室してください
- ・活動までの時間は宿題・読書・学習の時間です
- ・活動後の時間は、こども自身がすることを決める自由時間です

Curiosity	小学 1、2年生	希望日予約制	2回 / 月
活動：16:10 ～ 17:00 IN：15:40、OUT：17:20	最大 100分	8,000 円 / 月 追加 2000 円 / 回	
Discovery	小学3～6年生	希望日予約制	3回 / 月
活動：17:10 ～ 18:10 IN：16:40、OUT：18:30	最大 110分	10,000 円 / 月 追加 3000 円 / 回	
Endeavour	中学7～9年生	希望日予約制	3回 / 月
活動：18:30 ～ 19:40 IN：18:00、OUT：20:00	最大 120分	12,000 円 / 月 追加 3000 円 / 回	

学習系クラス

小学生クラスは「通いやすさ」と「習慣化」を選択できるシステムです。

- ・学習系クラスは、活動時間と開所時間が同一です
- ・ガリレオは1日に2コマあります
- ・ガリレオは金曜日固定、または希望日予約制からスタイルを選べます
(スタイルの途中変更や、1日に2コマ連続の受講も可能です)

Galileo	小学1～6年生	金曜固定 or 希望日予約制	3回 / 月
活動： 16:30 ～ 17:15 または 17:30 ～ 18:15	45分	6,000 円 / 月 追加 2000 円 / 回	
Cassini	中学7～9年生	金曜	3回 / 月
活動： 18:30 ～ 20:00	90分	10,000 円 / 月 追加 3000 円 / 回	

希望日予約制について

毎月下旬に翌月の予約枠をホームページのカレンダーにてお知らせします。ご家庭の予定に合わせて、柔軟に学習スケジュールを組むことができます。

会員制度

こども技研は、会員制の学びと体験の場です。

会員になることで、研究員としての活動をはじめ、写真部や家族向けサービスなど、さまざまなプログラムにご参加いただけます。

ご家族での参加について

ご家族のうち、どなたか1名が会員登録を行うと、同一世帯のご家族全員が会員として扱われます。家族単位で学びや体験を共有できる仕組みです。

月会費

2,000円／月（1家族・1契約）

- ・ ご家族単位での契約となります
- ・ 兄弟、親子で通われても月会費は1契約だけです
- ・ 同一世帯での請求先は1つに限ります

会費の使い道

会費は、以下の運営および環境整備のために使用されます。

- ・ ラボの共用環境の維持
- ・ 会員ごとの個別アカウント管理
- ・ クラウド環境などのIT基盤の整備・運用

会員としてできること

- ・ 研究員としての活動への参加
- ・ 写真部などの部活動への参加
- ・ 家族向けプログラム・サービスの利用

こども技研では、ご家族単位で参加しやすい会員制度を採用しています。

シグネチャー制

こども技研では、すべての研究員が「Signature（シグネチャー）」と呼ばれる研究員名を使って活動します。

Signatureは、単なるニックネームではなく、研究員として自分で選ぶ「活動上の名前」です。

こども技研では、子どもたちを「生徒」ではなく「研究員」として迎えます。その第一歩として、自分はどんな研究員として名乗るのかを考えます。

日常の自分は本名、こども技研での対外的な自分がSignatureです。

研究の時間中は、年齢や立場に関わらず、お互いをSignatureで呼び合います。これにより、過度にかしこまらない、フラットで話しやすいラボの空気が生まれます。

大人の研究員の方にもSignatureを使っていただきます。
ニックネーム程度の感覚で問題ありません。

また、研究成果や活動の様子をWeb上で発信する際も、Signatureを使うことで、実名を公開せずに表現できます。
安心して活動し、発信できる仕組みです。

Signatureは、「この名前で研究する」と自分で選んだ名前です。
名前を持つことで、研究員としての意識や責任が自然と育つことを大切にしています。

シグネチャーの一例

所長は、「FINDER（ファインダー）」というシグネチャーで活動しています。カメラのファインダーと、「見つける人（Findする人）」のダブルミーニングから生まれた名前です。

こども技研 First Labでは、「名前を持つこと」から、すでに学びが始まっています。

こども技研は、
こどもたちが「自分で学ぶ力」を育てる場所です。

今の時代、知識そのものは調べれば手に入ります。
だから大切なのは、「何を知りたいのかを見つける力」、
「自分で考え、試し、深めていく力」だと考えています。

こどもたちは本来、強い好奇心を持っています。
大人の役割は、それを管理することではなく、
芽を摘まず、世界を見せ、見守り、共に喜ぶこと。

こども技研では、
こどもたち一人ひとりが“研究員”として、
自分で決めたテーマに向き合います。
学年や教科に縛られず、
興味を起点に、試行錯誤する時間を大切にしています。

学校の時間、友達との時間、家族との時間。
そして、こどもでいられる限られた時間。
そのすべてが、未来につながる学びになるように。

こども技研は、
こどもたちがどんな時代でも生きていける力を身につけるために、
学び方そのものを考え続けています。



〒675-1332

兵庫県小野市中町

327-1

所長 FINDER

webでは、こども技研の日常を公開しています。



LINE公式は一般公開のイベントもお知らせしています



研究室の今

